

市政の動き

6月定例会報告  
市長総括説明から

5月31日、令和6年第2回豊岡市議会定例会が開会しました。

開会にあたり市長が総括説明を行い、当面する市政の諸課題および提出議案などについて説明しました。その中から主な内容をお知らせします。

なお、市長総括説明の全文については、市ホームページをご覧ください。  


安全に安心して暮らせるまち  
津波への対応

市民の皆さんの津波避難行動と市の津波避難対策に係る課題を明らかにするため、本年2月に港地区、城崎地域および竹野町竹野地区の3034世帯に、市民津波避難アンケートを実施しました。現在、結果の分析などを行っています。

また、津波避難対策として、さまざまな意見を踏まえ、1点目として、津波からの避難を促すため、津波警報の発表後、天候や時刻などにかかわらず、直ちに避難指示の発令を行うこととしました。現在、市民の皆さんへ避難指示を知らせる手段を検討しています。

2点目として、津波からの避難場所については、多くが屋外の高台を指定していることから、最短10分まで到達する津波から命を守る避難場所の意味を、地域の皆さんと再確認するとともに、屋外避難の必要性和長時間避難へのあり方を共に考えていきます。

3点目として、屋内避難所の開設については、従来の地震感知機能に加え、ダイヤル番号式の鍵保管箱の設置や、地域の区長などの皆さんの協力を得る方向で調整しています。

引き続き、アンケートの結果も踏まえながら、自助、共助、公助のそれぞれで必要な津波などへの対応について検討していきます。

豊岡市地域包括支援センターの運営

本市が市社会福祉協議会に委託している市地域包括支援センター業務のうち、港地区を除く豊岡圏域については、深刻な人材不足のため現状を維持することが困難であるとの理由により、社協側から2025年度以降、受託できない旨の申し出がありました。

本市としては、社協と業務継続に向けた協議を重ねてきましたが、社協側の翻意は得られていません。今後の運営方法について、早急に対応策を取りまとめたかと考えています。

持続可能な「力」を高めるまち  
「コウノトリ豊岡産業用地」の分譲公募開始

当用地は、兵庫県が整備する県道但馬空港港線の沿線に整備を進めています。16年度に事業着手以降、関連する用地の購入、造成工事、上下水道工事などを行ってきました。24年度から25年度にかけて未整備区間の水道管布設工事および水道減

圧施設整備を行い、これらをもって整備事業が完了することとなります。

24年秋に予定されている北近畿豊岡自動車道豊岡出石インターチェンジの供用開始に合わせて用地の売買契約が締結できるよう、5月31日から分譲公募を開始します。

公共交通のあり方

竹野地域では、現在、路線バス、市営バス「イナカ」および実証事業として運行している「予約型乗合タクシー」の3つの交通手段により、地域の移動需要を支えています。

路線バスは、平日1便当たりの平均利用者が1・69人、市営バス「イナカ」は、直近5期連続で1便当たりの利用者が1人に満たない状況です。「予約型乗合タクシー」は、運行业務を委託する事業者の確保、サービス水準と公費負担のバランスの観点からも持続性に課題があります。これらのことから、竹野地域全体として現状の交通ネット

ワークを維持し続けるのは困難であると考えています。本市としては、地域の将来を見据え、竹野地域に合った仕組みを皆さんと対話を重ねながら創り上げていきたいと考えています。

日高地域では、通所系福祉事業者の送迎車両を活用した利用者の自宅と目的地間の送迎が、高齢者の新たな公共交通の手段となり得るかを検証するため、21年9月から福祉モビリティ実証事業を行ってきました。本年3月末で終了し、その結果がまとまりました。

利用希望者に対し、実際に輸送が実現したマッチング率は、44・6%にとどまりました。タクシー事業者との協業や専用車両の導入などを行ったものの、移動需要に応えられる供給体制の確立に課題が残りました。市民の皆さんの移動を支える公共交通の仕組みのあり方は、特定の地域のみならず全市域共通の課題であると認識しており、市民の皆さんと議論を深めていきたいと考えています。

## ■地域おこし協力隊

本市では14年度から地域おこし協力隊制度を導入しています。5月1日に、採用した隊員で累計100人に到達しました。同日現在で29人の隊員が地域活性化などの活動を行っています。任期を終えた71人の隊員のうち、47人が起業などにより市内に定住しています。全国平均の52・0%に対して66・2%と高い定住率となっています。

今後多様な人材を受け入れ、より一層の定着率向上を図るため、活動に関する相談対応や定着に向けた起業の支援など、隊員へのサポートなどに取り組んでいきます。

## 人生を楽しむお互いを

### 支え合うまち

■社会教育基本計画の策定  
人口減少や少子高齢化および価値観の多様化などにより、社会情勢の変化に対応した社会教育を進めていく必要があります。

本市では社会教育の目指す姿や行政の果たす役割を

示すため「社会教育基本計画」の策定を進めています。市民・有識者などで構成

する策定委員会で協議いただき、基本理念を「学びや活動による『自分づくり・生きがいづくり・つながりづくり・まちづくり』の推進」としました。4月にパブリックコメントを実施し、現在、策定に向けて最終調整を行っています。

## ■新文化会館整備事業

建築工事の入札が不調となり、23年度内の工事契約ができなくなりました。

本事業の推進にあたっては、現豊岡市民会館の老朽化状況などから判断して、当初の方針どおり進めていきたいと考えています。

具体的な事業スケジュールの把握や発注方法の検討など、事業を取り巻く現状を的確に把握するため、サウンディング型市場調査を実施します。併せて、工事費用の再積算を行い、それらの結果を踏まえて今後の進め方を検討し、適切に対応していきます。

## 市政の運営

### ■「豊岡市地方創生総合戦略」の策定

第2期豊岡市地方創生総合戦略は、今年度中に第3期の戦略を策定することとしています。

しかしながら、市政の最重要課題である人口減少対策をより効率的・効果的に推進するため、計画期間を1年延長し、25年度中に、26年度からの「後期市政経営方針」と一体的に第3期総合戦略の検討を進めることとします。

策定にあたっては、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略を踏まえ、本市の魅力向上につながる施策や、市民の皆さんが愛着を持って住み続けられる持続可能な施策を検討していきます。

## ■ジェンダーなど多様性を

### テーマにした豊岡市オリジナル絵本作

昨年度、本市出身の絵本作家羽尻利門氏に作画を依頼した絵本は、7月下旬に完成予定です。

8月には、読み聞かせや、

ジェンダーや多様性について考えるトークショー、原画展示などの内容で絵本完成発表会を計画しています。これらを通して、子どもに関わる大人がジェンダーや多様性教育の重要性について理解を深めるとともに、子どもたちに他者理解、自己理解を促すことや、性別にとらわれず夢を持ち、実現に向けてチャレンジできたいと考えています。

## ■市民との共創による

### まちづくり

第5次豊岡市行政改革大綱の5つの柱のうち①公共サービスが多様な人たちによって創造されている②

多様な市民の思い・願いが尊重されている―を実現するため、新しい手法で市民との共創を進めていきます。まず、本市の取組みや課題を市民の皆さんと共有し、解決策を考える『自分ごと化会議』を開催します。今年度は「バス交通をリデザインする」誰もが気軽に移動できる地域を共に考える

」をテーマに7月と9月に開催し、路線バス、スクールバスなどによる市民の皆さんの移動に係る課題を、無作為抽出で選ばれた30人程度の市民の皆さんと共有し、共に解決策を考えます。また、豊岡スマートコミュニティ推進機構では、市民の「この地域のために、これをやりたい」という「WILL」を支援するためのイベント「第1回みんな・エール」を4月に実施されました。市民の皆さんや市内の高校生など36人が集まり、プレゼンター2人の「WILL」を応援するため「WILL」をアイデア出しや仲間づくりが行われました。

さらに、ドローンなどにより地域の拠点に運ばれた荷物の個人宅などへの配送方法に関し、社会的処方（人のつながりを処方し、元々な地域をつくる仕組み）などの観点も踏まえ、但東地域の有志の皆さんと日本郵便・総務省・兵庫県・本市などが一体となり、社会実験としての配送プランづくりに取り組んでいきます。